月刊
利根日石新聞
2009年11月1日創刊　令和6年4月号
第０００１７５号
発行
利根日石㈱株式会社　TEL.0278-24-1635
本社販売管理課　FAX 0278-23-7980

入学式、入社式　新しいスタートを親はほっとしていたり、心配だったり大丈夫かなと考えてしまいますよね。先日ディズニーランドの近くのホテルで姪の結婚式があり行って来ました。今はレンタルの洋服が便利でスーツを利用してみました。とってもよかったです。2人とも病院に勤めている医療従事者同士で、昨年6月に入籍をしましたが、2人で半年間のダイエットを行なっていて、ほっそりとなっていました。結婚式は3時ガラー時間披露宴は夕方4時から8時まで、席の名前のカードには一人一人へ自筆でこれまでのお礼と当日来て下さってありがとうと、これからも宜しくお願いしますのメッセージが5行書かれていて仕事をしながらの用意、大変だったなと思いました。姪の上司は今までの色々な出来事を涙をこぼしながら話していて、かわいがってもらったり、信頼していることが伝わって来ました。2人の高校、大学の友人、職場の人のおめでとうメッセージで時間が過ぎました。姪の両親への言葉も長かったのですが最後の新郎の挨拶です自分はお父さんの顔を知りません、産まれて6ヵ月の時病気で亡くしてしまいたくさんの人に助けてもらって生きて来ましたと話したしたら涙腺崩壊、みんな涙で大変(;;)
仕事に家庭と忙しいですが二人仲よく末永く幸せになってほしいと願わずにはいられませんでした

皆様、4月は入社式、入学式など新たな門出の月です。
更に花見の季節でもありますが私の地元「石岛」にて世界的に有名な「三春の滝桜」をぜひ一度見て下さい。

少し歴史などをご紹介しますと、天保の頃、加茂季鷹の詠歌
～陸奥にみちたるのみか四方八方にひびきわたれし滝桜花～
によって知られ、三春藩立御用木として保護されました。大正11年には国の天然記念物に指定。
今では、皇居宮殿の正殿の間『杉戸絵』や赤坂サカスの東宝ビッグウォール壁面
が滝桜をモチーフに描かれた事でも知られています。

推定樹齢1000年超
超パワーを私も滝桜から頂きました。

沼田駅、開業100周年を迎える

現在の沼田駅は1924年3月31日に開業しました。ですので、今年ちょうど100歳になりました。当日は記念の特別なSLが走り、駅周辺ではイベントが開催されました。たまたま私も実行委員会に携わる縁があり、その準備を通じて沼田駅とその周辺の100年の歴史に触れる機会があったので、今回はその事を書きたいと思います。

先ず、意外だったのは国鉄のSLが走る以前から沼田には列車が走っていたことでした。久米民之助を始めとする地元有志で興した利根軌道という民間鉄道です。設立当初の1910年当時は馬車引きでしたが、1918年には電化されました。やがて水力発電所の開発が盛んになり、その為の資材や機材を乗せて走るようにもなりました。当時の駅は鍛冶町にある東京発電（旧東電）辺りが終着駅でした。NHKの「ブラタモリ」でも紹介されましたが、戸鹿野八幡様の前の斜面を登っていました。この斜面はかなりきつく、つづら折りの登り坂を前進と後進を繰り返し登る「スイッチバック方式」だったそうです。

その後、国の鉄道敷設が計画される時に急斜面を避けて（水上方面に延伸する事も考慮して）、今の場所に沼田駅が建設される事になりました。利根軌道よりもレール幅がぐんと広がり、列車も大きくなり、電気ではなく、蒸気機関で走るSLが登場します。このSLの登場より前に電気鉄道が走っていたことも意外でした。それはこの地域で水力発電所が多数存在していた事と関係しています。上毛カルタの「理想の電化に電源群馬」の由来です。利根軌道は鉄道事業と共に地域の電力供給事業も行っていたのです。地の利を活かした再生可能エネルギーによるローカルな電気鉄道ネットワークが出来ていたところに、高崎から長岡までの鉄道計画を含む「改正鉄道敷設法」が制定され、CO_2をまき散らすSLが登場した、と言うと意地悪い言い方でしょう。時は大正13年、関東大震災の翌年で復興と近代化が盛んになる大正デモクラシーで、環境問題が指摘されるはるか前の事だったので無理もありません。

1924年3月31日に渋川ー沼田間のSL開通によって沼田駅が開業する訳ですが、その2年後には後閑まで、さらに2年後には水上まで開通します。そしてその3年後の1931年、ついに「トンネルで名高い清水トンネル」が開通し、東京から新潟までの全線が繋がる事となりました。

また、1960年から運行を開始した上野ー沼田間の夜行列車、通称「尾瀬列車」は特に1970年代から80年代にかけて登山人気を誇った尾瀬への主要なアクセスとして多くの人に親しまれました。私は既に産まれている年代ですが、正直、余り気憶にありません。1日4本もの尾瀬列車が明け方（というかまだ深夜）に沼田駅に到着し、数千もの登山客がまだ暗な中、滝坂の上の方まで連なるバスに乗り込んで尾瀬を目指したなんて、余りピンときません。そんな時代もあったのか、と感慨深い気持ちになります。

沼田駅で開催されてる写真展に展示されていた写真の中に弊社の広告発見！「利根石炭石油」という名称は昭和39年から46年までの7年間しか使われていなかったので今から50数年前の写真か…？

実は利根日石の歴史も沼田駅とは繋がりがあります。創業した1952年「利根石炭」という社名でスタートした弊社はその名のとおり、石炭を主な商品として販売していました。創業者は沼田駅まで貨物列車で引かれてきた石炭を貨車からリヤカーに積み替えて、滝坂を登り、工場や病院などに売り歩いたと聞きます。急傾斜もさることながら、未舗装だった道の登坂は大変だったと思います。

沼田駅の歴史と共に、弊社の創業時にも思いを馳せる機会となりました。

沼田駅の写真展は4/20（くらい）まで、4/27～歴史資料館で企画展があります。